

2002年1月1日

明けましておめでとうございます。昨年12月から降り積もった雪で裏磐梯の「スノーフィールド」は絶好のコンディションです。休暇村コースは勿論中瀬沼、五色沼、銅沼の各コースも多少のブッシュは気になるもののパフパフの新雪で、「一度体験したら止められない」状態です。

是非、今のうちに裏磐梯にGO！！(もく)

2002年1月8日

この冬の正月は雪もすごかった。

元旦は晴れて、気持ちよかったけど、4日に大雪!!一晩で80cmは積もった。そして私の愛車は屋根まで埋もれ、雪かきがまにあわなくて、5日、6日と脱出できなかった。7日によやく車のとこまでたどりついてほっとひと安心。こんなすごい降り方は裏磐梯にきてはじめてくらい。

7日はOFFで、友人とクロカンしました。ヤマドリの足あととどって大きな岩の下をのぞたえら、

バサバサッ!!

オスの長い尾羽がひらめいて飛びさっていきました。カエデの気のツララ(メープルシロップ味)もみつけて食べた。たのしいツアーだったなア。(まき)

2002年1月10日

年明け4日、5日のドカ雪で正月そうそう此れでもかというくらい除雪をしたのでもう当分やらなくていいだろうと思ったのが間違いの元。8日からまた来ました大寒波！！

雪国の生活は大変なのです。でも、そのおかげでどこでも自由に歩ける「ネイチャースキーパラダイス」になりました。

明日は、メイと一緒に中瀬沼周辺でも散策しようっと。(もく)

2002年1月15日

13日の午後のツアーで今シーズンはじめて桧原湖にのりました!

米沢へ抜ける(冬は通行止めになるので抜けられないけど)県道沿いの、“こたかもり荘”さんの前の大きな入り江にはその日50張りちかいワカサギ釣りのテントが並んでいて、スノーモービルもビューンと走っていたので、「よし、行きましょう」と、お客さんと一緒に湖上へ。

記念撮影したり、ストックでつついて水を出してみたり、湖気分をたのしんできました。

今日も桧原湖とレンゲ沼、休暇村内にあるハス沼の上へクロカンで行きましたが、1日雨。朝の気温は6°C。寒さが厳しくなるのはこれからだけど、融けるなよ～。(まき)

2002年1月22日

1月19日、今シーズンはじめて、桧原湖の水門付近から白樺さん橋までクロカンで歩く。前日に氷の厚さ50cmと聞いてたし、スノーモービルが氷上を走り回ってるし、「よし、大丈夫!」と、お客さんを案内する。天気は上々で風に吹かれることもなく、広いなめらかな湖上のクロカンは最高の滑りごごち。

20日にこの冬一番の寒さになり、-10°Cくらいまで冷えこんだ。放射冷却の朝の樹氷が一転して21日は+5°C、雨。

神奈川県の高校生たちと再び桧原湖へ。1月に雨なんてめずらしい。この日の湖は透明なグレー。生徒たちから歓声があがる。私もこんな色の湖ははじめて見る。うん、悪くないな。(まき)

2002年1月29日

早いですねー。裏磐梯ではもう1月が終わります。いや、全国的に1月はあと2日ですね。“例年なみ”という例年”がどんなもんなのかよくわかりませんが、1月の裏磐梯は雪がど

っさり降り、そしてなぜか雨が3度も降りました。-10°Cという日もあれば+6°Cなんて日もあって、全般にはあたたかい冬です。なにしろうちの水道がこの冬1回も凍ってないんですから!(昨年は水道、風呂、洗濯機が寒すぎてつかえなくなることが何回もあって、私は泣きを見たのだ)

27日の雪は湿ったボダン雪でした。それがけっこう積もってラッセル・クロカンでした。足が重かったー。

28、29日はまたサラサラ雪に戻ったのでパウダースノーをけちらず軽快クロカンになりました。

やっぱり寒い方がいいです。雪は軽くなるしウェアもぬれないんですからね。(まき)

## 2002年2月7日

2月第1日曜日に行われた2時間トライアル(クロカンの大会。2時間で3kmコースをグルグル回って自分がどれだけ走れるか挑戦するもの)が終わると、ガイドの仕事がちょっと休みになった。次の週末は冬のシーズンで一番忙しくなる3連休。今のうちに遊んでおかねば。

クロカン持ってレンゲ沼の北側にあるサイトステーションへ行く。無料駐車場があり、雪原へ入る所をなだらかにしてくれているのでツアーに出やすい。いきなり凍ったレンゲ沼を渡っていく。中瀬沼方面の流れ山(磐梯山の爆発による泥流上のたくさんの丘)のてっぺんを次々と制覇していく。川沿いに中瀬沼上に出ると、白い磐梯山がグレーの冬空にクッキリ。ああコーヒー持ってくりやよかった。1時間滑って家に着いたとたん、突然吹雪。びっくり。あー、遊んどいてよかった。(まき)



## 2002年2月12日

2月9日からの3連休、天候が荒れるという話だったので心配していたけれど、フタを開けてみれば、時折吹雪くものの、青空も見えたりしてなかなかのクロカン日和でした。

休暇村のコースを少しはずれてツアーをしていると、ウサギがダーっとかけて行きました。

開けた所だったので11人のお客さん全員が目撃。この人たちは超ラッキーで、このあとコハクチョウ5羽(おそらく家族ですね)を見るは、ヤマドリメスの見るは。なかにはツアー中、もう1回ウサギを見た人もいました。運がよすぎる!

ところでこのコハクチョウ・ファミリー、会ったのは3連休の3日間だけでした。ハクチョウたちも連休つかって、裏磐梯に遊びに来てたんですねえ(そんなわけないでしょーが)。(まき)

## 2002年2月14日

バレンタインデーですね。しかし、我が家は「そんなことはどーでもいいっ!」という事態になっております。

まあ、毎年冬になることなので、もうオドロキはしませんが、今年も水道が凍って出なくなりました。

12日から出ないので今日で3日目。ストーブたいもダメ。お湯かけてもダメ。さいわい風呂場の水道が水出るのでなんとかなってます。

湯わかし器もアウト。そして風呂オケも中の水が凍ってます。風呂がまも凍りついて、ガスつけてもすぐ消えてわかさせません。

しょうがないので近所の温泉に。歩いて5分ですが湯ざめしないように車で行って。

今回は排水口も凍ってて水が流れないのも困ってます。寒いとサラサラパウダースノーが降るからいいけど。いつになったら水出るのかなあ。(まき)

## 2002年2月21日

18日、19日は猛吹雪になり、降った雪もそうとうで車を出すにも30分ちかく雪かきをしなくてはならなかった。

20日、雪は続いたが、午後には陽射しもみられるようになり、ようやく天候が落ちついた。

しかし我が家はまだ台所の水道が凍りついて出ないままだった。電熱ヒーターもストーブもお湯を蛇口にかけてりも、考えられる手はつくしたが出ない。

水道管が破裂するかもしれないので、20日に水道屋さんをお願いしたが、忙しくて見にだけ来てくれた。

21日の朝。ポタ…ポタ…と水音がする。窓から光がさしてる。室温2℃。台所行って蛇口をひねる。ポタタタ…ジョジョジョ…ザザーツ。あー、やったあ出た。9日ぶりです。水道屋さんへ報告。

しかし、問題は終わらない。排水は凍ったまま。電熱ヒーターとストーブで再挑戦。たまたま汚水をかき出して何度目かのお湯をたつぷりと排水口にそそぐ。20分後。流れた!!あーやったー。(まき)

## 2002年2月28日

25日の朝、冷え込んだ。風呂場の水道がまた凍った。でも天気がよくて気温が上昇。ひと仕事して家に昼頃戻ると、水が出た。洗濯機も10日ぶりに動いた。山のような洗濯物を洗う。

あ〜うれしいなあ。

なんだか春のようなおだやかな気候です。半ソデでクロカンやってる人もいました。

27日には雨がパラつき、今朝も雨。

27日に久しぶりで郡山方面へ行ったら、ウメがほころびはじめてる。雪ないんですね。長靴でスーパーに行ったら、長いのは私だけでした。うらばんだいでも、道路は乾いているから、フツの靴でいいもんなあ。靴かおうかな。(まき)



## 2002年3月17日

3月8日、晴。休暇村のクロカンコースから、ささき亭(パン屋さん)へ行くコースにかかる橋が雪どけが進んで渡れなくなった。

3月11日、晴。休暇村バス停の向かいから、桧原湖へ行くじやり道が除雪される。クロカンツアーがやりにくくなった。

3月12日、雨・雪・晴。めまぐるしく変わる天気。

3月15日、雨。あったかい雨。日に日に、クロカンコース(3kmコースや1.5kmコース)の途中がひび割れて沈みこんでいく。その下は沼とか湿地、沢なのだ。雪どけとともに、コースは消えていく。

3月17日、晴。桧原漁協が遊漁券の販売を中止した。わかさぎの穴釣りはこの冬はこれでおしまいということだ。

春がくるのはうれしいけれど、クロカンシーズンが終わりに近づくのは…淋しいなあ。天気の様、この冬雪はもう、おしまいですかあ?(まき)

## 2002年3月20日

前回「この冬の雪はもうおしまいですかあ?」と嘆いたら、天の神さまに通じたようで、そのハガキをポストに入れたとたん(この日記はたかはしがはがきにかいて東京の布田さんが入力しているのです)2日続けて雪が降りました。やったあ。

でも、お客さんがいなくなってきました。まあ、それならそれで来シーズンの下見に出かけます。

池田君と2人で小野川湖畔探勝路をクロカンで不動滝へ。大粒のボタン雪が山あいをスローモーションで降りてきます。ブナ、ミズナラの森は枝に雪をのせ、それはきれいです。

カモシカの足あと、サルの群れと出会い、黄色の冬毛のテンの姿。ヤマドリ飛び去るところ。エナガ、ヒガラ、コゲラの群れ。トロッコ走らせてた頃のなごりの石段。そして磐梯山、小野川湖、吾妻の展望。ちょっとロングルートですが、さいこーのツアーでした。(まき)

## 2002年3月22日



この数日裏磐梯は春になってます。“めい”の散歩もトレーナー一枚で行けるし長靴の必要もないし、そういえばここ1ヶ月雪らしい雪も降ってないですネ。

なんて書くと「じゃあスキーできないの？」ってなことになってしまいますがご安心下さい。山の方は例年並みの積雪が有り、いつも通りツアーが楽しめます。

ここでちょっとお知らせです。例年4月第3週の土曜日に開通していた「磐梯・吾妻スカイライン」ですが、今年は除雪の都合で4月24日(水)にずれ込んでしまいそうです。ですから「浄土平・鎌沼ネイチャースキーツアー」の企画は4月27日(土)、28日(日)に実施します。但し、平日ツアーを含め開催期間は4/24~5/4です。是非ご参加下さい。スノーシューツアーも同時開催です。(もく)

## 2002年4月3日

もくもくOD塾の冬の仕事はあと少しあるけど、もうだいたい終わりになった。もくさんがスタッフや知人に声をかけて、6人で雄国沼のスキーツアーに行ってきた。

遠くは春がすみで飯豊や安達太良はよく見えなかったけど、磐梯、吾妻はきれい。雄国山に登っていくとき、上の空の青があざやかだった。

沼はだいぶゆるんでいるようだ。土手の土があらわれていて、フキノトウがちょこっと顔を出している。もくさんは草の上にスキーのままのって、フキノトウをとりながら歩く。「グラススキーってのがあろうか?」う〜ん、そうだけども。昼食に春の苦さが加わった。

風もなくおだやかな昼ごはん。ワインをのんでからラビスパに下った人がちどり足だったことはいうまでもありません。(まき)

## 2002年4月7日

2001年12月24日からはじめた冬の仕事が2002年4月1日にようやく終わりました。この間、朝から晩までガイドおよびバイトの全くないまるっきりの休日は4日だけでした。

よしよし、今シーズンもよく働いた! ケガもせずビョーキにもなんないでよかったよかった。

さっそく4月2日には栃木に花見に出かけ(ソメイヨシノ、カタクリ、キクザキイチゲ、ハルリンドウ、スマレ類、etc.)、1人で塩原温泉に入り、そのまま館岩村の知人の宿へ行って南米料理食べて帰宅途中、湯野上温泉セブンイレブンの駐車場で1時間半も仮眠してから(5分のつもりだった)夜2:00帰宅、4月3日は前回の日記にかいたよーに、雄国ツアー行って、夜はバイト。

愛車セレナ君を車検に送り出す。4日は1人京ヶ森(桧原湖南西部)にクロカンツアー。5日はバイトのあと、天栄村友人宅へ飲みに行き、泊まってから6日バイト。ようやく今日はひるまでねてました。夕方からバイトだ。(まき)

## 2002年4月11日

今日からしばらく裏磐梯を離れます。実家(浦和)や友人たちに会ったり、西表島へ行く予定です。営業でーす(ほんとか?)。

帰ってきたらもう、雪はないかも、ということで10日、最後のスキーツアーに行く。前から約束していたペンションもみのきのオーナーと西大巔へ。グランデコのリフト下りてテレマークにシール張り(私の板はかなり軽いタイプだが)アイスバーンぎみの堅雪をふんで1時間後山頂。上の方はゆうべの冷え込みでオオシラビソに樹氷がついていた。展望もまあまあ。昼食を木の下で食べてからリフトの所まで20分で下りる。

ゲレンデのゆるゆる斜面でコケた。いたくてそのあと起きあがれなかった。通りすがりのおじさんスキーヤーに「大丈夫ですか?」と声かけられ、ねたまま「いやー、ちょっと昼寝なんですー」と答える。それから自分で滑りおりた。スピードの出しすぎは危ないな。(う〜ん技術がないだけって話か?)(まき)

## 2002年4月13日

朝4:00に家を出、京浜東北線4:30南浦和始発に乗って、6:30羽田発の飛行機で石垣島。そっから波をけちらしてすっつとんでく船で11:45西表島に着く。

ああ、10日前に西大巔に行ったなんて、デコで左足のじん帯を痛めたなんてウソみたい。宿の近くの海岸はその日の午後潮がひいていて、サンゴのタイドプールには緑色のヒトデやまっ青な魚、しろくのウミヘビがいた。

上空にはカンムリワシが舞い、トンボもいる。道路を突然よこぎるシロハラクイナ。ゲンバイヒルガオが咲いて海中にはアマモが茂る。生きものが裏磐梯とは全然ちがう。海水でぬれたダイビングシューズには星砂がくっついている。水も風もあたたかい。宿の人にはすでに「かえらなくなるんじゃないの?」といわれている。(まき)

## 2002年4月15日

西表島3日目。浦内川の中流、遊覧船の終点の船着場で帰りの船を待っている所。ジーとイワサキクサゼミが鳴いています。エゾゼミ(裏磐梯で真夏に鳴くゼミ)と同じような声。川辺にはクチナシとサキシマツツジが咲いて、まわりの山の森はモコモコした照葉樹。マリユドウの滝まで(途中お昼食べたり写真とったりしつつ)往復3時間してきました。サンコウチョウの姿、アカショウビンの声。こうして船を待つ今もその声は聞こえてきます。宿でねていてもしよっちゅう聞こえる。今朝も6:00から散歩してみました、見られません。「火の鳥 アカショウビン」という本を学生の頃見て、それ以来ずっと見たいと思いつづけています。裏磐梯にも夏に渡ってきますが、声しかきいたことないんだよなー。暑すぎず寒くもなく、気持ちのいい川風が吹いています。(まき)

## 2002年4月16日

### \*\*編集者注

本当はここに「波照間1日目」があるはずなのですが、まだ届きません。どこで道草くってるんだ?ふと気がついたのですが、沖縄からの方が裏磐梯からよりも早く届きますね〜(ハマ)

### \*\*編集者注 その2

道草でなくて迷子になってました、宛て名が町名までしか書いてないんだもん(^\_^;)…それでも届いた、スゴイ。(ハマ)

\*\*

西表島から日本の最南端、波照間島に来ました。やどの車で港まで送ってもらう時、一緒に乗ったお客さんと話して、しっかりもくもくのパンフを渡してきました。西表で泊まったやどはガイドもやっていて、「裏磐梯がOFFの時は西表でガイドやりましょうか!」なんて冗談も言いましたが、きのうも浦内川沿い歩く時、けっこうマジに植物を調べたりして(まあそれが私のたのしみなんだけど)。それはそうと、目の前にはサンゴ礁と太平洋(?)が広がっています。ついさっきまでこの景色を1人じめしてましたが、釣りの人が1人きたので2人になりました。西表島とも少しちがう生物がみられておもしろい。海辺の植物が感動的なくらい生き生きしているのがなによりうれしい。海も海岸も全てが元気がいい。その中にいるだけで、満足してしまう。休日はこうでなくちゃ。さあ今夜南十字星は見られるでしょうか?(まき)

## 2002年4月17日

波照間島2日目。今日も晴。レンタサイクルで最南端の碑へ行く。途中ガシュマルの木陰でぬり忘れていた日焼け止めをつける。陽射しは強烈。きのう半日でダイビングシューズと腕時計のアトがついた。

自転車の速さで吹いていく風が気持ちいい。焼けていいから(もう黒いし)それよりこの風をあびたいと帽子をかごにつっこんで坂を下った。

岬にはアズマ屋があり歩道もある。その眼下にガビガビのサンゴの岩場があって、エッジに太平洋の波がくだけている。岩場登り用のしっかりした靴ではじまで行く。コーラルグリーン(というのかな)の海水が白い泡になって、ザバーンと大きな音をたて、私の背よりうんと高くで飛びちる。ちょっとコワイがおもしろい。何回もシャッター切ってしまった。

ここで会ったおにいちゃんにパンフ渡す。帰り道、西表で会った人と再会。この人にもパンフを渡す。

集落の公園の木の下で休んでいるとどこかの家の柱時計がポーンポーンと12回なった。(まき)

## 2002年4月18日

本日も西表島にあります。宿でガイドもやっているので、申し込んでみました。  
船浦湾から西田川とヒナイ川をカヌーでさかのぼり、それぞれの滝をみてるというツアー。ピナイサーラの滝は落差55mの迫力ある滝。カヌーを下りて上まで森の中を30分くらい歩く。山の多い西表ですが展望のいい所は皆無だそうで、こっからのながめは北の鳩間島あたりとサンゴ礁が見えて、気分がいい。その後滝つぼ行って、ガイドさんに「反省することもあるでしょうから滝に打たれてみましょう」といわれ「反省することなんてない!」といつつ、打たれてきました。  
2:00ころから潮がひいてマングローブの干潟はカニとハゼと貝がうじゃうじゃ。あとで案内してもらったパイナップル畑で国の特別天然記念物セマルハコガメにも出会う。  
はじめてカヌーをする人でも安心して行ける地形で、しかも南の自然をたっぷり味わえるコースでした。  
ミトさんはチカラの抜けた案内をしてくれて、ほどよい距離感があってなかなか名ガイド。ありがとう。おもしろかった。(まき)

## 2002年4月28日

ペンションの周りに雪があったのはずっと昔だったような記憶になってしまう最近の陽気です。でも、4/27、28は浄土平で「もくもく」最後の冬企画のネイチャースキーを楽しんできました。  
これでスキー、スノーシューは仕納めという参加者も多く、天気にも恵まれ(雲一つ無い無風状態)シーズンを締めくくるには最高のツアーでした。  
今シーズン講習、ツアーに参加された方楽しめましたか。参加出来なかった方来シーズン是非ご参加下さい。  
そして、冬の間HPをご覧いただいた皆さん「どうも有り難うございました」グリーンシーズンもよろしく!(もく)

## 2002年5月3日

シロヤナギの明るい黄緑、オオヤマザクラのピンク、アカイタヤの赤みがかった新葉。スモモの花は枝いっぱい白く咲いて、裏磐梯は春があふれかえています。  
ことしのGWはおだやかな晴天がずっと続いて、サイクリングしたら最高。  
でも夜は0℃まで下がります。だからサクラも新緑も長く保たれているのでしょうか、キャンプの方は十分に防寒の用意を!コンビニにつかいですてカイロを買いにくる、タキ火のにおいのするお客さんがいます。  
登山道は雪が残ってます。靴で歩けますが、時々、夏の道がわからなくなることもあります。お気をつけて。(まき)

## 2002年5月10日

9日、学校登山の下見で先生方と一切経山に登った。予報では晴、降水確率0%なのだが、1600mの浄土平の駐車場は10歩離れたら人が見えないくらい真っ白なキリの中。「どこに山があるんですか?」と先生。  
はじめ30分の急登はさすがにキツく、「三途の川がみえる～」発言もでる。山頂近くでガスが晴れ、鎌沼、吾妻の山々、ササやぶの緑に残雪、青空が見渡せた。“魔女の瞳”五色沼の色もばっちり。下界は一面雲海でおおわれていた。酸ヶ平小屋の手前の谷や、鎌沼西岸一帯、姥ヶ原～浄土平の下りは残雪があって、時々道を失いそうになる。でも登山靴で横すべりしたり、尻すべりで楽しめました。  
5月中旬にいく人は残雪が薄くなってるので、足をふみ抜いたり雪で倒れていた木々が起きてくるので注意!ですね。(まき)

## 2002年5月12日

起きたらくもりだった。磐梯山の中腹から上はずっと雲の中だった。「山開き」の日なのに残念でしたね、と思いつつ、仕事はないし、風邪ひいて、ついでに左足ひざのじん帯もまだ治ってないので家で休養。  
ニューサマーオレンジが郡山で売っていて、箱買いした友人が1つ私にくれた。レモン色の皮は薄くむいて白いワタごと実を食べる。  
食べ終わって皮がもったいない気がしたので砂糖漬けにしてみた。



- (1) 適当にきる。大きめで。(2) ゆでる。(水はたっぷりがいいみたいです)やわらかくなったら水をすてる。
- (3) 砂糖と水(ひたひたくらい)と(2)をなべにいれて火にかけ、煮立ったら火を止めてさます。(砂糖はまいかい大さじ山もり1くらい)
- (4) 皮は出して、(3)のなべに砂糖を入れて煮立て、皮を戻してひと煮立ちさせて、さます。
- (5) 皮は出して、(4)にまた砂糖を入れてとろとろに煮つめて皮を戻し、ひと煮立ちさせる。
- (6) グラニュー糖ひろげてあついうちにとりだした皮をまぶし、網にのせかわかす。



そんなことを洗たくしたり、ごはん食べたりしながらやっていた1日でした。これ、おばあちゃんがよく夏みかんの皮でつくってくれた。まぶす砂糖もフツの白いさとうでつくってくれたなあ。(まき)

## 2002年5月20日

TVはなくラジオもきれいに入らないので、天気予報は177にかけて聞く。6:30の情報でくもり一時雨、降水確率40%、午後50%。

では午前中磐梯山へ行ってこよう、と8:40家を出る。八方台で霧雨。ブナ林の中を歩き出すと吹き抜ける風が冷たい。でも10分たったら汗ばんできた。タムシバ、オオカメノキ、ムラサキヤシオが咲いている。こんな天気の日曜日の磐梯山は静かだ。帰るまでに会った人は11人。だいたいは人に会わずに歩くことになる。

ミヤマスマシ、エンレイソウ、イワナシ、ツバメオモト、ショウジョウバカマ、ヒメイチゲ。足元の花も寒そうに開いている。ヒメヒミズ(モグラの仲間)があおむけになって死んでいた。テンカキツネにかじられてそのままほったらかされたのかもしれない。

11:05山頂。展望なし。風は弱いので寒くはない。岩に腰かけてコーヒーを飲む。花の写真を撮りつつ下る。1:10下山。池でモリアオガエルが鳴いていた。

残雪は6ヶ所。でも雪の上を歩かなければならないのは2ヶ所。あまり気にならない量でした。(まき)



## 2002年5月29日

このごろ磐梯山によく登る。20日から2日に1度のペース。全て学校登山のガイドです。

25日には登山道の雪は消えてなくなった。天気はめぐまれることが続いて、青空に残雪の映える飯豊や朝日の山々、吾妻連峰に安達太良山、会津若松、喜多方、猪苗代の水田にかこまれた街や、桧原湖、小野川湖、秋元湖、猪苗代湖を「う〜む、今日もきれいなあ」とトランシーバー片手に腕時計や生徒たちの顔を見るあい間にチラッと見てます。

(前にも書いた気もしますが)5月後半のこの山は、登山口はブナのやわらかい新緑とエゾハルゼミの声で初夏を感じ、中の湯をすぎるとダケカンバ林はまだ葉がひらかず、枝々の間から青空をみせてくれ、その上はタカネザクラが花からつぼみまで変化して見られ、林や斜面には雪もまだある早春に変わっていくという、4時間歩いて2ヶ月ちかい季節の移ろいを楽しめてしまうお得な頃なのです。

そんなことを伝えたいと思いつつ「走って下りたら危ないよーっ!」叫ぶ現実。(まき)

## 2002年6月4日

6月3日はやたらと空気が澄んでいた。千葉からの中学生に磐梯山の山頂で「富士山は見える?」と聞かれて、そう言えば気にしたことなかったなと思った。那須方面は少し雲があったので無理か。

その夕方、喜多方へ出かけた。飯豊連峰より西へ太陽が沈んでいく。喜多方や会津若松の盆地をとりかこんで幾重にも山々が重なる。手前は黒く遠くは青紫、赤へと色がかすんでいく。赤色の中に富士山のとっぺんの形の山があった。

「えっ富士山?」いや、方角が違うだろう。あっちは新潟だ。

浦和にいた頃、朝夕の通学、通勤中に電車からよく眺めていた山だから記憶の底に富士山はしみこんでいる。浦和にいた年数の方が長いから「富士山が見えない所にいるんだなあ」と喜多方の街で少ししみりしてしまった。

でも人生の終わり頃には「磐梯山が見えない」と淋しく思う時がくるかもしれない。今度磐梯山に登ったら富士山を探そう。と思った。(まき)

2002年6月5日

まきちゃん本人の肉筆版です。



2002年6月13日

それにしても天気が続くなあ、と思って手帳につけてるのを見ると、半月くらい雨らしい雨が降ってなかった。

11日にレンゲ沼から松原湖畔遊歩道を歩いて五色沼遊歩道を数名の中学生とゆっくり花やらトリやら探しながら行ったら、「ここでサンショウウオの卵塊を見れるはず」「モリアオガエルがもう産卵してるだろう」というポイントがことごとく干上がっている。サカナがいた所もあったというのに。

雪も少なかったし、こう雨が降らないと影響あるんだなあ。レンゲ沼も水位が20cmはさがってたし。

昼ころ気温が上がるとエゾハルゼミ大合唱。「梅雨前になくだけないてやるー」イキオイ。

生徒たちがいろいろ発見して収穫が多い日でした。オオトラフソウの卵、モリアオガエルの小さい固体、エゾハルゼミ(弱ったの)、ヒメズ(死体2つ)、オオルリ(つがいのけんか?)、ヒオウギアヤマメ開花。(まき)

2002年6月18日

雄国沼に行ってきました。天気予報は的中、昼から雨。梅雨だからなあ。

そうそう、湿原きれいでしたよー。満開のレンゲツツジと花数の増えてきたニッコウキスゲ、そして今年は花つきの具合が70%といったところのコバイケイソウ。朱色、黄色、白の



とりあわせが見られるのは今週いっぱいかもしれません。

ニッコウキスゲのピーク、今年は早まりそうです。6月下旬あたり、ねらい目か？

6/15、デコ平湿原に行った時もコバイケイソウきれいでした。こちらはワタスゲ大群生。やや下向きみ。少雨の影響は林内にもでてるようです。ショウキラン、ギンリョウソウが少ない。そしてヤマナメクジが小さい、少ない。(まき)

## 2002年6月24日

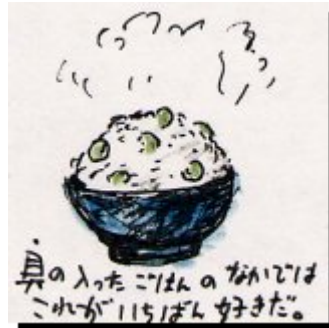
6月中旬から、スーパーでグリーンピースのさやつきを見かけていた。1パック(プラムがはいっているような深めのプラスチックパック)300円の頃は「1人暮らしでこんなに買ってまなあ…それに300円は高い」と、あきらめていた。

でも、私は子供の頃からグリーンピースご飯が大好きなので、食べたいなあ、安くなんないかなあ…と、日々注目していた。

22日に白いトレイに入った15さやで100円を見つけて、「おあつらえむき!!」とばかりに買って来た。久しぶりに昆布だしをとったりしていねいに作った。もち米があったら良かったなあとか、日本酒入れたかったなあ、とか足りないながらも、おいしいグリーンピースごはんができた。

今日はプラム用のパックにたっぷり入って100円のをみつけたので、日本酒をそのために買って来て作った。では、つくりかた。(分量は4人前)

1. 米3合をといで、ざるにあげ、1時間おく。
2. グリーンピースはさやから出して1カップ分用意して、海水くらいの塩水で洗う。
3. 水3.5カップに6cmの昆布(はさみで切れ目を入れておく)4枚を入れ、30分おいてから、中火にかけふつと煮る前に昆布を出す。
4. 炊飯器のかまに(1)と(2)と(3)(さました方がいいのかもしれないが、私はあったかいまま入れていた)と酒大さじ1と塩小さじ1を入れてふつと炊く。
5. スイッチが切れたらハシで穴をあけて、水分を下におとしてから、まぜる。



(まき)

## 2002年6月28日

しばらくぶりに晴れ。カヌーの練習に曾原湖へ。バスポートが2つ対岸にあるだけ。

湖水の上を渡ってくる風は涼しく、直射日光にさらされる肌にこちいい。

岸沿いに草木を見ながら進んでいたら、カルガモの親子が向こうから来ていた。ヒナは黄色と茶色のしま模様で、まだ親の色になっていない。岸から離れて見ていたら、水際の草や木の枝をのりこえのりこえ、かくれつつ進んでいた。

進路を島へ向ける。島の草むらでトンボが羽化して羽をのばしていた。黒と黄色のトンボになるらしかったが、まだ黒の予定の所がグレー。でも、見られているのはイヤだったようで、飛んでいってしまった。少し下に抜けがらがあったので持ち帰る。(平地～低山地の開けた池沼や湖にいるオオヤマトンボであった。)

それでは、島を回ってみるかとか向きを変えたとたんさっきのカルガモ親子にまた会ってしまった。カルガモは冷静に島から離れていった。私はじたばたしながら、さん橋へ帰った。(まき)

## 2002年7月6日

雄国沼の小屋泊まりに、お客さん3人と行ってきました。7月6日の1:45から登りはじめて小屋に5:00着。雄国山の山頂からも湿原が黄色く見えるほど、ニッコウキスゲが咲いてました。小屋に荷物をおいて夕暮れの湿原へ。他に誰もいないお花畑の中でコーヒーで一休み。サワラン、トキソウ、ヒオウギ、アヤメも満開でした。

小屋に戻って夕食を作っていると、7:05頃、雲が赤く染まってきました。手を止めてながめっていると、数分で空の色がグレーに変わっていきました。

北斗七星、織姫、ひこ星、白鳥座、かんむり座、牛かい座、さそり座。人工衛星は一定の明るさでスーッと移動していきます。流れ星も1回。



「夜景を見に行きましょう」と金沢峠へ行き、喜多方の街の灯りと星空を寝っころがって見ました。

10:00に寝袋に入りました。暖かくて、寝袋かけてるくらいでちょうどよかった。

7日、4:30に朝焼けを見てから、3度目の湿原へ。ニッコウキスゲは朝しぼむとゆ一発見をしました。

「天気悪いかなあ」という予想をくつがえして青空が広がっていきます。雄国山頂からは雪を頂いた飯豊連峰がくつきり。

行き帰りの道にはホタルブクロ。そしてクマイチゴ、モミジイチゴ、カマグワをたっぶり食べて下山。そうそう、途中、シマヘビとイタチを見た。もりだくさんだったなあ。(まき)

## 2002年7月18日

7月中旬の台風の置き土産は、磐梯山の登山道の土砂崩れでした。メインルートである八方台から入って、中の湯と銅沼(～裏磐梯スキー場へ)の分岐のところが液状化現象のようなドロでふさがれてます。歩けなくもないのですが、管理にあたる磐梯町が中の湯をつきる道に(この際だから?)つけ変える作業に入り、八方台からの登山道を通行止にしました。(7/20開通予定です)

近々、磐梯山登山のガイドがあるので様子を見に裏磐梯スキー場から入りました。20日ぶりの磐梯山。そして山歩きも10日ぶり。体がなまってる上に、けっこう暑い。汗がポタポタ落ちます。ゲレンデにヤナギラン大群落。みごとだなあ～、なーんてこの辺はヨユーかましてましたが、中の湯からいっぺん八方台に行って、戻って、また登りはじめたら、体がだるくて進まない。

15分歩いて15分休む。弘法清水小屋でなめこ汁を注文。すんごく塩分が欲しかった。小屋のヨシダさんは、たたーと走ってウドのやわらかい所を少し持ってきて、なめこ汁に入れてくれました。いい香りでした。これで元気になって山頂へ。アカトンボ(まだ赤くなってない)の群れが上がってきます。登山者よりうーんと多い。さすがに1819mは涼しい。

下りは川上コース～裏磐梯スキー場コースで、ミヤマシャジンの花が見頃でした。(まき)



## 2002年7月22日

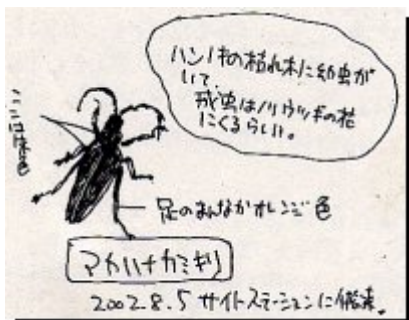
本日もり。夏の磐梯山登山はこれくらいでちょうどいい。八方台からの道は開通して中の湯をつきるようになりました。これは楽です。しかも展望もいい。そして中の湯のフゼイがいいんです。ポコポコとわく青白い湯の池があってほとりにホコラがまつてある。いちめんヤマタヌキラン(スゲ)が生えててその緑がキレイ。今度歩く予定の人はおたのしみに。

それにしても、なんでそんなことするかなあ!

18日に下見で見た時にあったテガタチドリ(ピンク色のラン)がない。そして生えてた所に石が1つ置かれてた。掘った穴を隠してったのか。テガタチドリの盗掘あとをみたのはこれで2度目。人が多く入る登山道ほど植物の種類やイキオイがやせ細ってしまう。淋しいぞ。やはり野におけテガタチドリです。(まき)

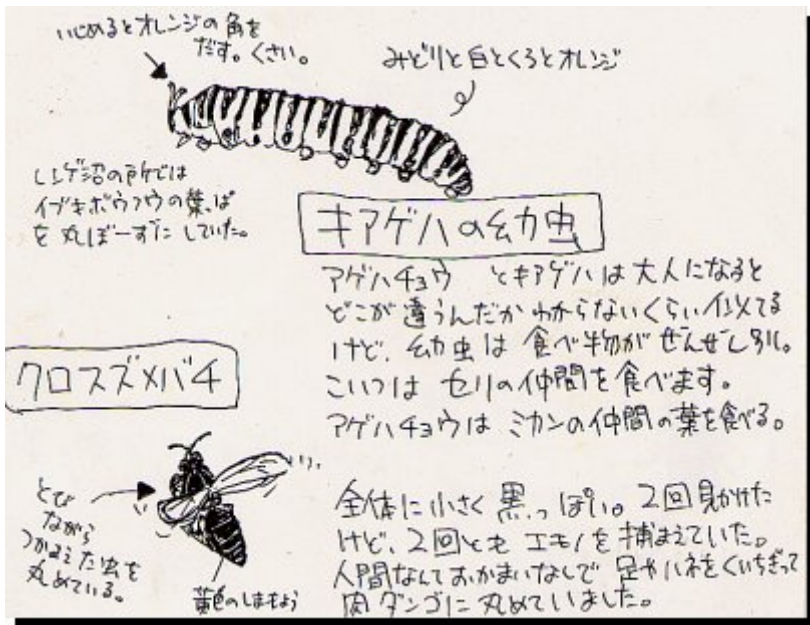
## 2002年8月5日

今年もレンゲ沼のほとりにあるサイトステーションで「裏磐梯を散歩しよう!」という観察会を毎日やっています。スタートして10日目。いままでにこんな生き物が見られました。





その他、キツネ(!!)、シマヘビ、サカハチチョウ、イチモンジチョウ、キビタキ、ツチガエル、オオルリボシヤンマ、バン(子ども)、チョウトンボ、etc. (まき)



2002年8月9日



本日「裏磐梯を散歩しよう!」2週目。朝から太い声でジ~~~~とエゾゼミの鳴く暑い日です。晴れ続きの割には今日の磐梯山はとてもクリアに見えます。入道雲もわかあがって完璧な夏の1日。

午前中、親子4人の参加者と中瀬沼の展望台へ。「オシドリがいますよ」と双眼鏡を持った人から声かけられ、探すけれど見つからない。ハンノキ林へ下っていくと、おかあさんが「何かいる!!」なんと林の中の水たまりにオシドリのメスが。しかもおかあさん

オシドリに色・柄・サイズもほぼ近くなった子供が4羽も。そのうち1羽が、まあびっくり、(多分)オニヤンマを丸のみしている。

え〜、オシドリって木の実、草の実だけ食べるんじゃないんだ。AM10:45頃のことでした。(まき)

この日みた生きもの:ゾウムシSP、クツワムシ?、バン(幼鳥)、モリアオガエル(おたま)、マツモムシ、ツチガエル、タニシ、オニヤンマ、オオルリボシヤンマ、アキアカネ、ノシメトンボ(ヤゴの抜けがもあった)、エゾゼミ(これも抜けがらあり)、アブラゼミ、カノコガ、モンキチョウ、マユタテアカネ、セマダラコガネ、バツタSP、マイマイガ(幼虫)、マメコガネ、オゼイトンボ、オオヘリカメムシ(幼虫)、トラマルハナバチ。(注 SP=〜の一種)

2002年8月10日

暑い!! 今日気温30℃。30℃で暑いなんて、東京の皆様には「甘いっ!!」と言われそうですが、こんな日には滝でしょう。桧原湖の奥の早稲沢のさらに奥、吾妻川の布滝へGO。

川沿いの遊歩道は木陰が続いてさわやかな風が吹いている。黒地にあざやかなブルーを輝かせてミヤマカラスアゲハが舞う。オニクワガタのオスがいます。ヤマアカガエルがはねて草むらへ飛び込む。

涼しいせいか休暇村周辺では終わってしまったエゾアジサイが青く咲いている。

布滝のゆるい流れで石をひっくり返してサンショウオを見つける。小指サイズのかわいいやつ。手にのせてながめて水に戻す。シュシュッと石のスキマへもぐり込んだ。

双眼鏡でみたら、滝の途中にフキユキノシタが咲いていた。図鑑の写真では花がよくわからない。岩が段々になってるのでよじ登って花の近くへ行って顔を見た。なかなかかわいい。クロクモソウも近くにあった。あー、布滝を登るのおもしろいなー。次はぬれてかわないかっこで行ってみたい。靴ん中ぬらしてしまったので…。(まき)





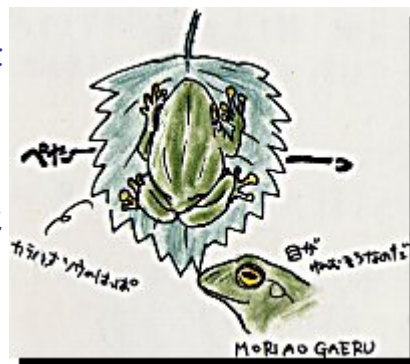
2002年8月17日

「裏磐梯を散歩しよう!」に参加して下さった方たちと毎日出かけていると、毎回何かしらその時1度きりしか見られないヒットがあります。

16日の午後は、カラハナソウ(別名、山ホップ。ビールの苦み・香りづけにつかうホップの野生版)の葉の上にモリアオガエルがくっついていました。はじめは双眼鏡で見てたのですが、やはり手にとりたい。つかまえると実に実に、吸盤がよ〜く手にすいついてくる。さすが樹上で暮らしてるカエルです。参加者に手渡しすると、とおめいなおしっこ(?)がでてきました。

17日はレンガ沼でマガモも親子づれ(親1子3)、カルガモの親子づれ(親1子1)も近くで見られました。

14日はイモリ。私1人では見ていたのですが、参加者と一緒に見たのははじめて。“目”が多い方がみつかるとモノも多くて楽しいです。(まき)





2002年9月19日

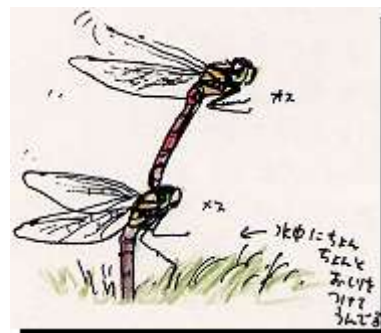
めっきり涼しくなりました。長ソデじゃないとトリ肌になってしまします。ストーブもつけようかな、と思います。本日、久々に秋晴れ！空気が澄んで吾妻連峰も安達太良も磐梯山もくっきり見えます。

昨日、休暇村の芝生広場に行ったら、浅い水たまりにたーくさんのアキアカネがオスメスつながって、産卵していました。

ふーん、夏の間だけ涼みにきて里に下りるのばっかりじゃなくて、ここで一生すごすアカトンボもいるのか。

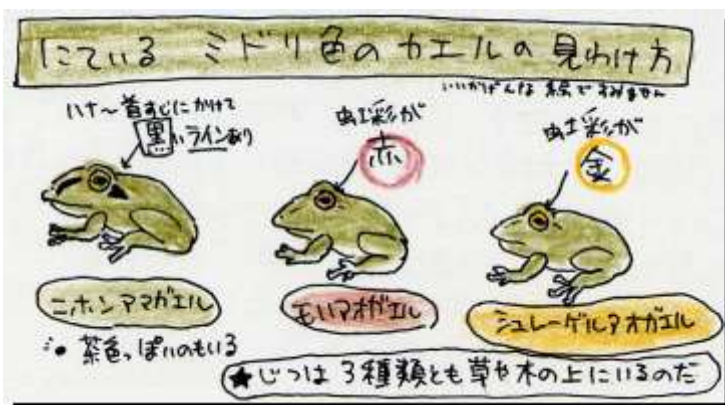
しかし水たまりはすぐ干上がりそうです。すかさず図鑑をみる。「産み落とされた卵は水中、あるいは土中で越冬する。卵は4~5月ごろにふ化する」…ここのは、雪融けした5月ごろにヤゴになって湿地へ歩いて行くのかな。そして2ヶ月後の7月にトンボになるそうだ。

卵時代は大丈夫だろうが、ヤゴ時代を無事すごせるのか、ちと心配。(まき)



2002年9月20日

本日も秋晴れ!!でも仕事なし!!  
 ああ、家にいるのもったいない!!  
 とゆーわけで、久々に赤井谷地へ行って見ました。猪苗代湖の西側、会津若松市にある湿原です。日本でいちばん小さいトンボ、ハッチョウトンボ(2cmくらいしかない)がいる…たしか、前行った時見たと思ったので探してみました。見つからなかった。たーくさんノシメトンボはいました。たまにアキアカネ、顔までまっ赤になったナツアカネ、1匹だけアオイトトンボ(緑色してる)。



湿原(実はほとんど中へ入れない)を見下ろす丘はコナラ林になっていて、あちらこちらで青いドングリの落ちる音がしていました。カンボクの木の上に青い小さいカエル発見。あー、モリアオガエルだな、と思って家帰って図鑑みると、もしかしたらシュレーゲルアオガエルだったかも。どちらも樹上生活するんですね。ちがいは目。黒目のまわり(光彩)が金色か赤色か。うーん、目はよく見なかった…。

草の上にはカマキリがいた。最近、見ます?カマキリ?私はラッキーとおもいましたね。(まき)

## 2002年9月28日

9月26日、27日で朝日連峰へ行ってきました。10月アタマに企画している山行の下見です。26日の出がけは濃霧が発生して、アヤシイ雲行きか、と思いましたが、朝日に着いたら晴れ!!登山口の朝日鉱泉からもくっきり山頂が見えます。風ほとんどなし。暑くもなく寒くもなく、秋の山は快適。

夕方小屋に着くまで半ソデシャツで少し汗ばむくらいでした。ふもとはこれからでしたが、稜線の紅葉は、赤、黄、緑(ハイマツとか)となかなか彩りよくキレイ。エゾリンドウやミヤマトリカブト、オヤマボクチ、沢に近いあたりではチョウジギク、オニシオガマ、ダイヤモンドソウ(びっくりするほど群生してる所がある!!)など、秋らしい花もイロイロありました。

27日の日の出は蔵王より北寄りの雲の中から赤く昇りました。鳥海、月山、吾妻連峰、飯豊連峰、以東岳への主稜線も見渡せました。やっぱりウレシイのは磐梯山が見えること。大朝日岳からの磐梯山はカッコいいです。

中ツル尾根から朝日俣沢(か黒俣沢)に続くブナの森は何度歩いても感動します。いろんな人と一緒に行きたいと強く思う道。

本番もぜひ晴れて欲しい!(まき)

## 2002年10月1日

9月のカレンダーをふり返ったら、雨降りが17日もあった。そして10月に入った本日も、雨である。

9月中旬に思いっきり冷え込み、夜には4℃なんて時もあったけど、このごろはまた少し気温高めで過ごしやすい。

その冷え込みがあったおかげか、昨日今日の裏磐梯あたりのツタウルシが最高に赤い!からんだ木はまだ緑の葉のままなので、その対比がまたいいんだなー。VS.アカマツ、VS.シロヤナギ、VS.カラマツetc。トチノキやカツラも時々キレーな黄色になってる木がある。磐梯山の山頂あたりも色づいている。

道路のあちこちにクリが落ちていて。知人Sさんが、先日どしゃ降りの中、山ほどクリをひろって、わけてくれた。山のクリって小粒だけど甘い。

ところで、今日ついにストーブをつけた。9月の寒さにもフトンかぶってセーター着てしらんぷり決め込んでたのだが、こう雨がずっと洗たく物が乾かないから。とか言って、つけたら、その暖かさが快適で。ヤバイ。(まき)

## 2002年10月4日

10月1日の家が吹っ飛びそうな台風をやりすごし(実際、うちのTVアンテナは倒れてしまった)、10月2日、米沢駅へお客さんを迎えに行き朝日鉱泉へ。昨年から何度もかよって、今年も9月下旬に下見した。「秋の朝日連峰山行」がいよいよ本番。

お客さんがバテませんように、楽しめますように、と1歩1歩足を運ぶ。余裕をたっぷりとったコースタイム、、途中で出会う人たちと台風の中、縦走した話を聞いたり、山形弁での山の見どころを教わったりしながら行く。

鳥原湿原から大朝日の稜線、特に小朝日から大朝日小屋にかけての紅葉が最高で、ふり返り、立止まり、カメラを向けて味わった。(しかし私はココロで泣いていた。出発する時、朝日鉱泉の玄関にカメラを忘れたのだ。フィルムも替え電池もザックに入れてあるのに…。手痛い教訓でした)

夕焼け、朝焼けは残念ながら恵まれなかったものの、中ツル尾根を下り、朝日川の溪流美を楽しんで帰った。帰途立ち寄った白鷹町のソバもおいしかった。

Tさん一緒に行けて楽しかったです。いい山行でした。(まき)

## 2002年10月8日



いわきのサンマを貰いました。早稲沢の大根も貰いました。いやあ、秋ですねえ。サンマ焼いて、大根おろしにごはん。みそ汁は大根と油あげ。

サンマがまだあります。カタクリ粉まぶして油で揚げて南蛮漬け。家の中がサンマと油のニオイでいっぱいです。さてあとは、クリも貰った。何にしよう。ブドウも貰った。買って来たサツマイモとカボチャになかなか手が回らない。秋はオイシイものがいっぱいあって、てんてこまいです。

10月6日に磐梯山のガイド。お花畑の西側の紅葉が、緑と赤と(今年は赤が多い気がします)黄で、バッチリでした。

沼の平から猪苗代スキー場へ下りる道、アキグミとシラタマノキがたくさん。まだ霜が降りてないから渋いのだけれど、赤い色につい手がのびて、「しぶ〜っ」と言いながらお客さんや添乗員さんがたべていました。

スキー場の下りは急斜面で、いつも大変な思いをする所ですが、「ああキレイですね」「うーん、なかなかいいですねー」と、一面スキの穂がなびくゲレンデに、ため息。秋ですねえ。(まき)

## 2002年10月11日

10月1日の台風の後も、なんだか雨模様が続いてましたが、11日はスカッとさわやか秋晴れとなりました。お天気・平日(=混まない)・仕事なしの3拍子そろって、出かけないともったいない。

前から行ってみたかった「雄国沼外輪山一周ツアー」をやってみよう!時間と体力が必要だなあ、と思って喜多方市から金沢峠まで車で上がる。11:10休憩舎へ向けて出発。なぜならば、W.C.に行きたかったから。そして猫石に登っていく。ここはいつも下りルートで歩いているけど「山頂めざす」感じの登りでなかなかいいなあ。ブナが低くなって猫石登場。

13:15。飯豊は少し雪が残っている。猫魔越しに西吾妻が見え磐梯山のピークは近くにある。猪苗代湖と田んぼの黄金色、会津若松から喜多方の眺め、紅葉の森にかこまれた青い雄国沼。たった1人でこの眺めをほしいままにして昼食をとる。なんてゼイタク。

さていよいよ未知のルートに突入。人からきいていたとおり、雄国沼の展望はなし。うーん確かに単調なルート。

途中軽トラック1台が入っていて、荷台にネマガリダケの幹が束ねて積まれていた。ああ、竹細工の材料をここへ採りにくるんだ。そういえば雄国は昔からそういう所なんだよなー。道がホソウに変わった所に地図にない遊歩道発見。15分で展望台(?)に出る。磐梯町がよく見えて、なぜか汽笛が聞こえた。車の音はしないのに、汽笛はよく響くんだなあ。

16:20金沢峠着。峠から湿原を見てたらミサゴが魚とっていました。17:00頃まで喜多方の西へ沈む夕日を見てから帰りました。(まき)



## 2002年10月22日

19日から21日、2人友達が遊びに来ました。20日の朝、7:00ころうちの窓の外をながめていた友達が「ノゴマがいるっ」「ええっ!!」3人して双眼鏡で探鳥モードになる。床にはトン敷きっぱなし、まだ寝まきで顔も洗っていない。

「ああっ、本当だあっ!!ノドがオレンジだあっ!!」図鑑をチェックする。夏に北海道で繁殖して南へ帰るらしい。とゆーことは、あのノゴマは渡りの途中なのかも。続いて「アオゲラだ!」「えっ!」「あっ、この鳥なかなあ?」「う〜ん…どうもクロジのメスみたい」「ん、またちがトリがいる!」「ムム…ムシクイ(ウグイスとかのなかま)のなかまみたいだ…」「あっ、カワセミが横切った!」「げげっ」



私はいつも見ているから、スズメとカラスしかいないって思って、気に止めてなかったんですね。(もちろんこの大当りの日も、スズメ、カラスはいつものよーにいたけど)Mさんありがとうございます!!私は生まれてはじめてノゴマ(しかもオス)を見ましたよ。そして21日に3人で雨の中レンゲ沼に行くと、アカマツの上にはリスが!!この2人ラッキーすぎるっ。(まき)

## 2002年10月27日

もくもくOD塾企画No.060「磐梯山清掃登山」は、宿泊費、ガイド代、保険代込みで、6,500円とゆー、とてもお得な内容だったのに、参加者がいなかったのでもくさんと池田君と私(たかはし)3人のスタッフで火バサミとスーパーのゴミ袋(ヨークベニマルなどが地元的)持って登ってきました。「23日に西吾妻、きのう飯豊初冠雪だって」と話しつつ、雨の中、カッパ着込んで八方台へ。ブナやカンバはほぼ落葉して「道のゴミが分かりにくいか〜?」なんて言いつつ、普段ガイド中にひろえない道わきのティッシュペーパーとか、埋まっているペプシの缶とかひろっていく。(缶がS40年代チックなのだ)

お花畑の所で、「あっ、雪だあ!!」アラレっぽい粒がパラパラパラ…「おーこいつはサイサイキいいやあ」「初雪だねえ」弘法清水に着くとふんわりした雪が、横なぐりにふってくる。「いいねえ」山頂に近づくにつれ、見わたす限り樹氷で、「うわ〜〜〜っ、きれ〜〜〜っ」連発。「初氷」といって、山頂の岩についたミニ・エビノシッポをカリカリかじってみた。展望はなしだけど、初冠雪の日に登山なんて、うれしい。

清水小屋では温カンまでごちそうになって、気分よく下山しました。

みなさん来年はぜひきて下さいね。(まき)

## 2002年10月29日

20月28日の朝6:55、窓の外はすでに雪景色だった。

「初雪だあ!」赤く黄色く紅葉した木々に白い雪が積もっていく。家の前のススキ原は枯れた茎が倒れふしてしまっていた。

わくわくしていたのはせいぜい午前中くらいで、空のどっかがこわれたかのように、いつまでも降りやまない雪、積もってゆく雪に序々に「ちょっ、ちょっと待ってくれよっ」という気分になる。夕方からバイトがあったので、「う〜ん、雪かきしないと出られないぞ。スコップ出して〜、カッパ着て、長グツはいて…手袋どこだっけなあ…」などとまだ冬モードになってない頭と体を起こしにかかる。

ノーマルタイヤでもそろそろ走れば大丈夫だろうと思ったら、なんと1つパンクしている。

「げげー」近所のG.S.に行き、とりあえず空気を入れてもらう。

「冬タイヤにとりかえちゃえばー」と言われるも、(この雪はすぐ融けて、またしばらくノーマルで大丈夫なんだろうーな。遠出もするしなあ…)と迷う。

しかし、この初雪はやまないで、翌29日の朝も降っていた。40cm! 7:00~8:30、ずっと雪かきをした。おもたいしめっぽい雪は久々なものあって、腕と腰にきた。

ようやく車を出し、ペシャンコになってるタイヤで、再びそろそろ…とG.S.へ行く。

「タイヤ交換お願いします」そしてその足でバイトへ。バイト後「そうだ初クロカンやっちゃえ!!」と、中瀬沼のコースを歩いてくる。誰の足あともトレースもなかった。イタチの足あどがたくさんついてた。

重い雪で、ハンノキもシロヤナギも太い枝がバキバキ折れていた。木だつてびっくりするよね。10月のこんな雪。(まき)

## 2002年10月3日



今日も雪が降っている。きのう久しぶりに猪苗代へ買い物に下りたら、道路かわいているし、どこにも雪がないので、おどろいた。4日前に喜多方に出かけた時も、喜多方の田んぼや街が見えてくるあたりから雪がなかった。

しかし、裏磐梯は10/28~29の初雪がまだ消えずに地面を白くしたままだ。そしてきのうから今日、断続的に雪が降っている。

体調も思わしくないし、寒さがこたえるので、ここのところ家にいる。この夏見つけたクモで気になるのがいたので「クモが好き」(福島 彬人著)を読んだ。でも、気になるクモのことはわからずじまい。クモの図鑑が見たい。

台所で石油ストーブをつけた。ファンヒーターとちがって電源がないし、暖房機能以外に調理もできるので、私はこいつが好きだ(でも、ファンヒーターも持っている)。台所のテーブルで読んだり、ノートを書いたりしながら、足元をあたため、お湯をわかしてコーヒーを飲んだ。ブドウのジャムもストーブの上でつくった。夕飯のおかずは、カボチャとあずきの煮物をつくった。はじめてこれを食べたのは、裏磐梯に来て、さいしょに住み込みしていた民宿のおばんちゃがつくってくれた物だった。ふみこばあ、どうしてるかな。(まき)



## 2002年11月11日

10日に東和町木幡にある隠津島神社へ行ってきました。9日に気温が下がり、うらばんだいはサラサラの細かい雪がふぶいて、10cmくらいもりました。木幡も降ったようですが、10日には、もうなくて快晴。

天栄村の友人宅は40cmつもったって。桜枝岐が1m。同じ県内でもこうもちがうかと、冬になると思います。

11日の朝、晴れたので、7:30に歩いてゴミ出しに行ったら、秋元湖の方からコホーコホーとコハクチョウがなきながら飛んで桜原湖の方へいきました。(まき)



## 2002年11月17日

「オオミズナギドリを保護してるんだけど」と池田君から電話。海にいる鳥がなんでここにいるの?

台風かなんかで内陸へ飛ばされてくる“迷鳥”というやつかもしれない。池田君ちへ行ったら、ホントにオオミズナギドリだった。桜原湖西岸に住んでいるサトシさんが14日に保護して、池田君に連絡入ってひきとってきたそうだ。

福島市の「小鳥の森」に聞いてみると「そこまで内陸にくるのはめずらしい。橋の上などから滑空させて飛ばすか、アクアマリンふくしま(いわきにある水族館)へ連れてって保護をたのむか」と教えてくれる。結局、池田君がよく知っている大玉村にある県鳥獣保護センターに搬送。16日、池田君の車に乗って、若松の哺乳類調査してるWさんも同行。

獣医の溝口先生はここ何件かオオミズナギドリが届けられてたので、あまり驚いていなかった。会津で100羽くらいが(おそらく日本海方面からとばされて?)発見されていて、死んだのも多いそうだ。

先生は「人間に保護されるということは、自力で飛べない、かなり衰弱した状態。手当てをしてから放さないで死んでしまう」と言った。

すぐ体重を測る。搬入された他の個体よりも軽い。

栄養分、水分、塩分を注射器で補給(海鳥なので、海水もふだん飲んでるそうだ)。

後日、いわきへ連れていくらしい。元気になって自分のすみかへ帰れるといいなあ。

池田君はよくやっているなあと思う。(まき)





## 2002年12月2日

11月18日から23日、屋久島に行ってきました。飛行機からはじめて見た島は、山・山・山。

さんざん地図でイメージしてた丸い形から、これは想像できなかったなあ。

19、20日で淀川登山口～黒味岳～宮之浦岳(九州最高峰。1,936m)、新高塚小屋泊で縄文杉やウィルソン株(でかい杉の切り株)、トロッコの線路(登山道も兼ねている)歩いて、辻峠越え、コケむす森、白谷雲水峡を抜けてバスに乗るルートを行いました。山の上の方はヤクザサの緑とでかくて妙な形の花崗岩が点在。岩の写真を撮りまくってました。ヤクシカにも出会う。有名なスギ以外にもでっかい木がいっぱいあって「このハリギリは日本一かも!」と思ったり。

22日に申し込んでいたリバーカヤックのツアーが雨で中止になり、友人と車で島一周しましたが、「う～ん、屋久島は、山に行っていないと心臓にふれた気がしないな」と思いました。山行ってよかった。友人の友人の家に泊まらせてもらったので、その人の知り合いに会ったり、彼女の行ってる公民館のフラダンス教室に参加したり、休む間もなく遊び続けたな。山本家の皆さんありがとう。深い旅になりました。(まき)

## 2002年12月3日

風なし! 青空! 展望バッチリ! 晴男(女)は誰? すげーいい天気。先日行ってきた屋久島で会ったH君が遊びに来た。会津若松の友人と3人でグランデコへ。

H君ボーダー、友人と私はテレマーカー(私にはへなちょこ、とゆー形容詞つきだ)。

10月末からの雪は12月の今、早くも春めいて土が出はじめている。フキノトウもありました(…ウソ)。

1日じゅうスキー場のゲレンデで遊んでるのって…はじめてかも…。西大巔の山頂に行って米沢をながめたい、と心をザワツカせつつ、おぼつかない足どりですべり、自分のぎこちなさで「シーズンは、はじまったばかり」を実感するのでありました。(まき)



## 2002年12月12日

「もう春?」なんてフザけてたら、今週の月曜から4日連続雪です。

本日は休暇村の1.5kmコースー今シーズンからは“ウサギの小径コース”といひますーをスノーシューでまわってきました。けっこう降ったと思ったけど、まだ湿地が見えてて、コースどおりに歩くには、もう一息! 雪ふれー。

赤い実: その(1)ツルウメモドキ。トリが好む。しかしまだ鈴なりでした。冬のコトリたちの出足もおくれるのか、それとも例年こんなもの? で、食べてみた。「ホオズキ」「マメガキ」「干しがキ」食べた人によって感想は様々。意外と水っぽい。うす甘く、さいごに渋みがありますが、まずまず。

赤い実その(2)カンボク。いっぱいありました。たべにきてください。

そうだ、クマ棚2002年度版もありましたよー。(まき)

## 2002年12月18日

雨(!!)の日曜、吹雪の火曜。翌日の晴れた水曜日、友人と雄国沼へネイチャースキー。雄子沢の駐車場へ車を置き、猫魔スキー場のリフトで1,349mのピークへ。磐梯山、安達太良山、吾妻連峰、桧原湖、小野川湖、秋元湖全てくつきり見渡せる。

10:25、雄国沼へ向かって滑り出す。うわ～、パウダースノー! ゆるやかな斜度。立木もブッシュもかわせる余裕。ああ、なんか上手になった気がするー!!(気のせいだって、わかってますけど。)

ブナ林を下って大きな沢へ入った。ひときわ大きな大きな、ブナ。幹回り4mはありそう。クマの爪跡がたくさんあった。近くのトチノキも爪跡だらけ。初めて入る沢だ。ここ、いいなあ。

カモシカの足跡、ウサギの足跡がたくさんついている。小さなブッシュを通り抜けようとしたら、根元の雪穴から、真っ白なウサギが、タタッ、と駆けていった。

飯豊連峰が白く大きく見える。雄国沼はグレーがかり、全面凍ってるけど、上を渡るには早そう。

小屋へ行って昼食。風がなく陽が当たると半ソデでも寒くなかった。

沼へ下りてみた。氷ツルツル。ちょっとドキドキ。でも割れません。

沼岸にあった木の名前を友人に聞かれたが、「？」冬芽の図鑑でマルバアオダモとなったが、違う。

家に帰って別の本で調べなおすと、「あーっ、これだ！」ヤチダモでした。

雄子沢を下りる途中でスノーシューのおじさん1人と会う。喜多方から、飯豊の写真の撮りに来たそうだ。「いい天気でしたもんね。」本日の入山者は計3名でした。(まき)



## 2002年12月22日

冬至ですね。私はけっこー好きです。

まずカボチャを食べる。国産カボチャが売ってなくてあきらめてましたが、知人が裏磐梯産のをくれたので煮ようと思います。例のあずきカボチャだな。

次にゆず湯に入る。これでこの冬も風邪知らずだ！そして、今日から日毎に陽が長くなっていくのだから、うれしいです。

さて、雪が少なく、クロカンの仕事が始まりません。予定があいたので、ネイチャースキーの板で、雄子沢往復で、雄国沼へ行ってみました。ここ数日、冷え込んでたので、雪がかりかりして、登りも下りも苦労しました。沢も埋もれてないので、渡るの大変。先日、上手くなったと思ったのは、やはり気のせいだったのね…。アイゼン+登山靴の人と、スノーシューの人がいました。その方がよさそう。

今回の目的は「雄国沼の微地形を探る。」

今シーズンは時間があれば(かつ、天気もよければ)、このテーマで雄国に行こうと考えてます。

前から「山の中に、小さいほころがあるよ」と聞いてたので、あたりをつけて行ってみると、あった！スギが5本が近くにあるので、ブナの森の中で目立ちます。

その谷を登っていくと、前回見つけた大きな大きなブナがありました。いやー、私は勝手に「王様ブナ」と呼んでますが、青空と、雪に映えてクンロク十分。雄国ツアーに行かれる方は、見つけてみて下さい。(まき)

## 2002年12月23日

晴。雪は消えるばかり。

家の前のシロヤナギの下に、10月の初雪の重みで折れた、太い枝が落ちている。ノコギリで50cmに切って、3本ひろってきた。ナタと小刀を使って黒い外皮をはぐと、白い心材があらわれる。玄関の大きさに合わせて、スキー板とストックの整理コーナーを作った。クギと針金は、前に買って、残っていたのがあったから、材料費は100円くらいか？ホントはホームセンター行って、角材を買ってくるつもりだったが、サイズ測って、強度とか考えて太さも選んで一と考えると、めんどくさくなって延ばし延ばしになっていたのだ。

ひろってきたヤナギの枝は、枝分かれしてたり、曲がっていたり、太いのも、細いのもあった。

この部分は、少ししか力がかからないから、細くていいや。ここはクギ打つから太めのを使おう。即興で作るのはおもしろかった。

好きな木から作ったし、板も倒れなくなったら、満足。(まき)